

〈教育旅行をお考えの方へ〉

# 中学生のための 日光

NIKKO  
TOCHIGI  
JAPAN

出発エリア別  
モデルコース  
掲載

伝えたい  
学びと  
体験

首都圏・関西・函館の3つの出発エリアで設定した  
2泊3日のおすすめモデルコースをはじめ、  
地元のエキスパートが語る世界遺産の大切さや日光の  
歴史・自然などを集約。中学生の教育旅行を  
お考えの方に最適な1冊です。





# ACCESS MAP 広域地図からのアクセスマップ



栃木県日光市観光部観光振興課

〒321-1292 栃木県日光市今市本町1番地  
TEL.0288-21-5170 FAX.0288-21-5121  
URL <http://www.city.nikko.lg.jp/>



一九九九年には「日光の社寺」が世界遺産に登録され、二〇〇六年に旧今市市、旧日光市、旧藤原町、旧足尾町、旧栗山村が合併し、現在の日光市が発足。市内の観光地・景勝地としては、日光の社寺や、日光連山、中禅寺湖、華厳ノ滝、

旧日光市エリアは、江戸時代に徳川家康および徳川家光の廟地となつて以来、日光東照宮の門前町として参拝客で賑わいました。明治時代に入ると、海外でも景勝地として知られていた日光東照宮や中禅寺湖、奥日光湯元温泉などを外国人が訪れるようになり、外国人に対応した宿泊・滞在施設が整備され、国際観光都市としての体裁が整えられていきました。

竜頭ノ滝、戦場ヶ原、湯滝、湯ノ湖や日光湯元温泉、鬼怒川温泉、川治温泉、湯西川温泉、鬼怒沼湿原、龍王峡、足尾銅山などがあります。

# 日光市全図



## 〈教育旅行をお考えの方へ〉 中学生のための 日光



### CONTENTS

目次

- P3 | P6 首都圏発・関西発・函館発  
**2泊3日モデルコース**
- P7 | P8 地元の元校長が考える  
**世界遺産の大切さ**

#### 歴史について

P9-P10 ..... 二社一寺の案内人が語る「おすすめ日光ガイド」  
P11-P14 ... 日光の歴史～深く多彩な1300年～

#### 自然について

P15-P16 ... 自然解説員が語る「日光の自然を楽しもう！」  
P17-P18 ... 奥日光の自然(1) ゆっくり歩いてこそ日光の素顔に会える  
P19 ..... 奥日光の自然(2) 私たちの日常生活と奥日光の自然は連動

- P2 ..... 日光市全図
- P20 ..... 足尾で環境問題を学ぶ
- P21 ..... 藤原・栗山・今市エリア
- P22 ..... 日光のおすすめ体験学習

#### 日光の豆知識

- P8 日光の豆知識① 意外な発見
- P10 日光の豆知識② 堂者引きとは
- P16 日光の豆知識③ 冬の奥日光を歩く
- P19 日光の豆知識④ ラムサール条約湿地

発行者：日光市



#### ナビゲーションアプリ 日光街歩きナビ

日光の観光と防災の情報をシームレスに連携した便利で安心な観光防災総合アプリです。スマートフォンやタブレットで手軽にご利用いただけます。



App Store (iOS版)  
Download on the App Store



Google Play (Android版)  
ANDROID APP ON Google play

**動画**  
世界遺産「日光の社寺」動画  
世界遺産の「日光の社寺」の「歴史的背景」「建造物群の特徴」「未来へ継承するための保存・修復」を紹介！  
YouTubeにリンクします。

日光市観光PR動画「Re:NIKKO」  
「誰もが知る定番の日光」はもちろん、四季を通じた「新鮮な非日常の日光」も次々と登場します。  
YouTubeにリンクします。

#### 日光の特産物



お線香



水羊羹



志そまきとうがらし



日光手打ち蕎麦



日光彫り



湯波



# 日光の自然と文化満喫コース

## 首都圏発2泊3日モデルコース

3日間日光の魅力を満喫できるモデルコース。歴史はもちろん、日光でしか味わえない大自然を堪能しよう！



東武ワールドスクウェア

華厳ノ滝

栃木県立日光自然博物館

### 5 日光東照宮



日本を代表する世界遺産「日光の社寺」。その中の「日光東照宮」は徳川家康がまつられた神社で、現在の社殿群は、そのほとんどが寛永13年3代将軍家光による「寛永の大造替」で建て替えられたもの。境内には国宝8棟、重要文化財34棟を含む55棟の建造物が並び、その豪華絢爛な美しさは圧巻です。全国各地から集められた名工により、建物には漆や極彩色がほどこされ、柱などには数多くの彫刻が飾られています。

開 8:00～17:00 (4月～10月)、8:00～16:00 (11月～3月)  
※各期間とも受付は閉門30分前に終了  
休 無休 料 大人・高校生1,300円、小・中学生450円  
※約200台

日光東照宮 ☎0288-54-0560



陽明門



三猿



眠猫

### 3 中禅寺湖遊覧



日光国立公園を代表する美しい湖・中禅寺湖を周る機船。中禅寺湖を1周する航路と千手ヶ浜コース(期間限定)等のコースがあり、中禅寺湖の様々な名所を周ります。豊かな自然に囲まれた広い湖面を遊覧船でまわれば違う一面が見えると思います。ぜひ、湖から自然を楽しんでください。

開 9:30～15:30 (船の駅中禅寺始発)  
※4/20～11/4までは9:30運行、上記以外は10:30始発

休 6/18は貸切により運休  
料 大人1,250円(中禅寺湖1周)  
小学生630円

※その他区間で料金が異なります。詳しくは中禅寺湖機船HPをご覧ください。

東武興業(株)中禅寺湖機船営業所 ☎0288-55-0360



### 1 華厳ノ滝

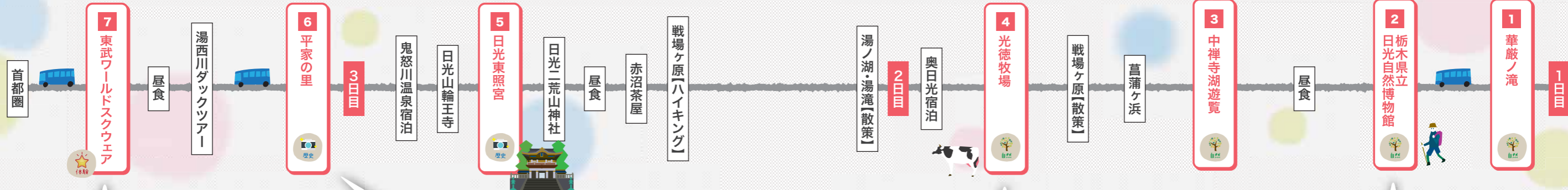


日本三大名瀑の一つに数えられている大瀑布。中禅寺湖の水が、高さ97mの岸壁を一気に落下する壮大な滝で、自然が作り出す雄大さと、華麗な造形美の両方を楽しむことができます。

開 8:00～17:00 (3月～11月)  
9:00～16:30 (12月～2月)  
※ただし、季節・気象状況により時間変更あり

料 大人550円、小学生330円  
※エレベーター往復

日光市観光協会 ☎0288-22-1525



### 7 東武ワールドスクウェア



「世界の遺跡と建築文化を守る」というテーマのもと、建築物を25分の1の縮尺で精巧に再現し展示しているテーマパーク。その展示数は100を超えます。人間も25分の1サイズになっており、その目線の高さから建物を見上げると本物そっくり！建築物を彩るように咲き誇る2万本以上の植物は、四季により表情を変え、見る者を楽しませてくれます。

開 9:00～17:00  
※但し、12月1日～3月19日は9時30分～16時  
※入園は閉園時間の1時間前まで

休 無休  
料 【当日券】大人2,800円、  
小人(4歳～小学生)1,400円  
【前売券】大人2,500円、  
小人1,200円

東武ワールドスクウェア ☎0288-77-1055



### 6 平家の里



平家の落人により集落が築かれたといわれ、平家落人の伝説が残る湯西川温泉。平家落人の生活様式を後世に残すため、村内の茅葺き屋根の民家を移築し再現した民族村です。平安時代にタイムスリップしたようなその様は見ごたえがあります。

開 8:30～17:00 (4/1～11/30)  
9:00～16:30 (12/1～3/30)

休 無休  
料 大人:510円(高校生以上)  
子供:250円(小・中学生)  
小学生未満:無料  
※団体割引(30名以上)あり。

平家の里 ☎0288-98-0126



### 4 光徳牧場



名物は濃厚アイスクリーム！奥日光ののどかな牧場。約3万平方メートルの広大な牧場で乳牛を放牧しています。搾りたての新鮮な牛乳や名物のアイスクリームを味わえます。ハンバーグやステーキなどのグルメもお楽しみいただけます。

開 8:30～17:00  
※冬期8:30～16:00

休 不定休  
料 駐車場50台

光徳牧場 ☎0288-55-0256



### 2 栃木県立日光自然博物館



奥日光の自然と歴史を紹介する博物館。地形の成り立ちや動物園の様子、数多くある滝などの自然のことや、山岳信仰の聖地として開山、発展し、近代の国際避暑地を経て、現在に至る歴史のことが分かります。

開 9:00～17:00 (4月～11月)  
10:00～16:00 (11月11日～3月31日)

休 無休 (6月～10月)  
月曜日 (11月～5月)  
※祝日の場合、翌日以降に振り替え  
※年末年始 12月29日～1月3日

料 大人510円  
4歳～中学生250円  
日光自然博物館 ☎0288-55-0880





# 日光の自然と異国情緒に触れるコース

## 函館発2泊3日モデルコース

明治から昭和初期にかけて外国人の避暑地として、賑わった「中禅寺湖」と自然に触れてみよう。

函館発

# 日光の自然と歴史に触れるコース

## 関西発2泊3日モデルコース

日光の世界遺産に登録されている「日光山輪王寺」をはじめ、歴史と自然を学べるコース。自然豊かな日光を学ぼう。

関西発

### 3 湯滝



湯ノ湖から流れ落ちる迫力満点の滝。湯ノ湖の南端にある高さ70メートル、長さ110メートルの滝で、湯川をせき止めて湯ノ湖をつくった三岳溶岩流の岩壁が湖水が流れ落ちる。滝壺に下りられ、その近くに観瀑台があって、迫力ある姿を眺められる。戦場ヶ原から北上するハイキングコースの途中にあり、バス停、湯滝入口からも近い。



日光市観光協会  
☎0288-22-1525

### 1 神橋



二荒山(男体山)をご神体としてまつる二荒山神社の建造物で、日光山内の入り口にかかる木造朱塗りの美しい橋。奈良時代の末に勝道上人が日光山を開くとき、大谷川の急流に行く手を阻まれ神仏に加護を求めた際、深沙王(じんじゃおう)が現れ2匹の蛇を放ち、その背から山菅(やますげ)が生えて橋になったという伝説を持つ神聖な橋。別名、山菅橋や山菅の蛇橋(じゃばし)とも呼ばれています。



日光二荒山神社  
☎0288-54-0535

### 3 鬼怒川ライン下り



大自然が創造した渓谷美の極みとして名高い鬼怒川の名物『鬼怒川ライン下り』。春には鮮やかな八汐つつじに彩られ、夏には新緑が涼を運び、秋には美しい紅葉に包まれる。そんな四季折々の季節の変化が船旅に彩りをそえます。美しい大自然と迫力の船旅をお楽しみください。

期 4月中旬～11月下旬  
9:00～15:45 1日12便  
※期間中は無休  
※電話予約8:00～17:00  
休 11月下旬～4月上旬  
料 大人(中学生以上)2,700円  
子供(4才から小学生まで)1,200円



鬼怒川高原開発株式会社  
☎0288-77-0531

### 1 日光山輪王寺



日光山輪王寺はお堂や塔、15の支院全体の総称で、「日光の社寺」として世界遺産に登録されています。1200年以上前、日光開山の祖である勝道上人が四本龍寺を建てたのが始まり。天台宗三本山のひとつに数えられます。

期 8:00～17:00(4月～10月)  
8:00～16:00(11月～3月)  
(各期間とも受付は開門30分前に終了)  
料 大人400円、  
小・中学生200円(三仏堂)  
大人900円、  
小・中学生400円(三仏堂&大猷殿)



日光山輪王寺  
☎0288-54-0531



### 4 中禅寺湖散策



奥日光の入り口に位置する中禅寺湖。周囲約25km、最大水深163mで、およそ2万年前に男体山の噴火による溶岩で渓谷がせき止められ、原形ができたといわれています。穏やかな気候のため、明治から昭和初期にかけては外国人の避暑地として賑わいました。男体山のふもとに広がるのどかな湖畔は四季折々の表情を楽しめますが、特に初夏のツツジ、秋の紅葉が見事です。



日光市観光協会  
☎0288-22-1525

### 2 日光二荒山神社



1200年以上前、勝道上人が開いた日光山。二荒山神社は日光山信仰の始まりとなった古社で、二荒山(男体山)をご神体としてまつり、古くから下野国の一の宮としてうやまわれ、信仰を集めていました。二荒山神社の主祭神は招福や縁結びの神様、大己貴命(おおなむちのみこと)がまつられており、現在では縁結びのご利益でも人気の社です。

期 8:00～17:00(4月～10月)  
8:00～16:00(11月～3月)  
(各期間とも受付は開門30分前に終了)

料 拝観料200円  
(本社神苑入園料)

日光二荒山神社  
☎0288-54-0535



### 4 EDO WONDERLAND日光江戸村



江戸時代の文化を肌で体感できるカルチュラルパークです。江戸人たちのふれあいや体験イベントを通して、活きた江戸の息吹に触れることができるほか、お客様ご自身もお着替えをして江戸人になりきることもできます。ここでしか味わえない百花繚乱の“EDO”があなたの旅の思い出を彩ります。

期 9:00～17:00(3/20～11/30)  
9:30～16:00(12/1～3/19)  
休 毎週水曜日  
(ただし、春休み・夏休み・祝日・年末年始は除く)  
料 大人4,700円、小人2,400円

EDO WONDERLAND日光江戸村  
☎0288-77-1777



### 2 さかなと森の観察園



水産総合研究センターの研究施設の一部を一般に公開し、広く冷水性魚類や自然に触れることができる広報施設として公開しています。園内の森のなかにある大小の飼育池では、ヒメマス、カワマスなどが群泳し給餌体験もできます。

期 9:00～17:00(3/20～10/31)  
9:00～16:00(11/1～11/30)  
休 無休  
(ただし、12月1日～3月19日まで冬期休園)  
料 大人300円、小・中学生100円

さかなと森の観察園  
☎0288-55-0055







日光東照宮の三猿



冬の日光連山



日光東照宮 陽明門

校長を務めていました。市内は観光面での活性化への期待から、大きな喜びに沸きました。

担当している教科が社会科だったこともあり、教育的な立場からも世界遺産登録の意義を伝えていく必要があるとの思いを強く持った、と高田さんは言います。「そこで私を委員長として、何人かの先生に集まっていたいただき、資料作りに取り組みることになったのです」と当時を振り返ります。

専門的な内容に関しては二社一寺や文化財保護関係者らの協力を仰ぎながら、「わくわく! 日光の社寺たんけん」と題した小学生向けのガイドブックを作り上げました。「日光二荒山神社・日光山輪王寺」「日光東照宮」「日光の社寺ゆかりの人々」の三部構成になっており、日光の社寺が複眼的にとらえられるようになっていました。

イラストをたくさん使い、クイズを解きながら、楽しく日光の二社一寺を巡っていくと、さまざま「なぞ」が解明されていく構成です。主として小学校四年生から五年生を対象にしていますが、平易な表現ながら極めて水準が高く、先生の教材としても十分に耐えうる内容です。

このガイドブックは日光市内の各小学校に配られて授業に活用されました。バイナード方式になっていて、その後も毎年少しずつ新

たな内容が追加されながら引き継がれ、今でも教育現場で利用されています。

元教師であるだけに、事前学習の重要性はよく分かっています。「日光を深く知るために、ぜひガイドブックを役立ててほしいと思います。自由に使ってもらえるよう、ネットに掲出しています。日光市『日光の社寺』のホームページからも入れますよ」と高田さん。こうした活動が基礎になって実現したのが、『日光こども歴史探検隊』です。毎年九月に行われるツアーウォークのイベントの際に、子どもたちが史跡ガイドとなって活躍しているのです。「訪れるお客さんたちも小さな案内役をととても喜んでくれています」。

指導役は、二十年ほど前から活動している市民のボランティア団体『ふるさとボランティア』の大人たち。世代を越えた協力体制が進み、取り組みが着実に実を結んでいることに高田さんは目を細めます。

日光の社寺が世界遺産に登録された翌年、世界遺産のあるまちの子どもたちが集まって、『世界遺産こどもサミット』が開かれたことがあります。「今回、岩手県の平泉の文化遺産が世界遺産に登録されたのは、絶好の機会ではないでしょうか。これを受けて、もう一度同じような催しができないか

# 地元の元校長が考える 世界遺産の大切さ



## 高田 雄康

1944年旧日光市生まれ。宇都宮大学を卒業後、38年間にわたって旧日光市内の小学校、宇都宮大学教育学部附属小学校で教鞭を執り、2005年日光市立東中学校長を最後に退職。その後白鷗大学で社会科の教科教育法の講師を務める。現在、日光ユネスコ協会事務局長、江戸時代の日光奉行所同心の家の生まれでもあるため郷土愛がひときわ強く様々な活動に積極的に取り組んでいる。

元校長先生の高田さんは日光を「日本人の精神性が最もよく残っているところ」と表現します。「日光東照宮には、いたるところに平和を願うメッセージが盛り込まれています。廐まじの彫刻は人間の一生をたどっていて、人の生きる道を教えます。陽明門の子どもの彫刻には、子どもを大切にする平和な世への願いが込められているのです。現代風にいえば、平和をテーマにしたテーマパークともいえるのではないでしょうか。」

また、日光二荒山神社と日光山輪王寺は、もともと山岳崇拜と仏教が結びついた『神仏習合』の考え方が基礎になっている、と指摘します。「日光の山々は、男体山が父親、女峰山が母親、その子どもが太郎山というように家族になっています。そしてそれぞれにその神様が祭られています。さらにそれが仏様として表れているのが、三仏堂にある三体の仏像です。平和の基本となるのは家族愛です。こうした思想でつくられたのが、日光二荒山神社と日光山輪王寺で、ここにも平和への願いが込められているわけです。」

日光を訪ねたら、このような背景をしっかりと学んで帰ってほしいと訴えます。

高田さんは日光の社寺が世界遺産に登録された一九九九(平成十一年)当時、日光市内の小学校で

という夢を持っていきます。子どもたちの成長は、地域の活性化にもつながっていきますから。退職後も、未来を担う子どもたちを見つめる目には期待がこもります。

高田さんは日光で生まれ育ちました。「戦乱をくぐり抜けた徳川家康が平和を願い、その土台をつくったことは事実です。建物や彫刻の見た目の美しさはもちろん素晴らしいのですが、それとともに精神的な側面がもっと見直されていいのではないのでしょうか。日光は『平和のまち』であることを前面に打ち出していくべきだと思いますね。これだけ素晴らしい文化が栄えたのは、平和であったればこそ、と考えています。」

**日光豆知識**

### 1 意外な発見

歴史が古いまじだけに、日光には見過ごされがちな場所で意外な発見ができる可能性があります。例えば高田さんの家の周辺は、東照宮を建てる際の作業場だったとのこと。「ここであらかじめ組み立てて現場での作業をしやすくしたようです。なんでもないように見える石が作業用の土台だったりするんです。」

西行や芭蕉にまつわる史跡もたくさん残っており、修学旅行をきっかけに日光に興味を持ったら、次は『自分だけの日光』を探しに訪ねてみるのも面白いかもしれません。

**おすすめ!** 世界遺産「日光の社寺」見学ガイドブック



聖地日光のおこりである日光二荒山神社、日光山輪王寺の由来、それらの歴史的建造物について写真を多く用いて解説、日光東照宮のコーナーでは彫刻の持つ意味をていねいに説明するなど分かりやすい。また、「日光の社寺」の祭礼や日光ゆかりの人物の動きも取り上げ、日光の歴史、文化を系統的、総合的に理解することができる。修学旅行向けに打って付けの手引書ともいえる。

▼わくわく! 日光の社寺たんけんホームページ  
<http://www.nikko-syaji-tanken.jp/>





赤いジャケットが案内人のユニホーム



日光東照宮 流鏝馬神事



陽明門の彫刻「唐子遊び」



日光東照宮 百物揃 千人行列



日光二荒山神社の茅の輪くぐり



二社一寺全体図

二社一寺の案内人が語る

# おすすめ日光ガイド

私たちは、本やインターネットなどで、しっかり事前学習をしてきます。「大変素晴らしいことです。その上で、自分の目で見て、大きさの違いを実感したり、見る角度によって表情が変わる様子を観察したりして、平面では分からないいろいろな見方があることを学んでほしい。子どもたちに向けて、「日光に着いた時から江戸時代にタイムスリップしたように説明している」と話す。当時の人（江戸時代）の身長を目線で見ること、より日光を知ってもらいたいと。

二社一寺の建物や彫刻にはすべてに意味があり、教えがある、と春日さんは指摘します。「どんなことでもいいので新しい発見、驚きを持ち帰ってもらえればうれしいですね。」

春日さんは九六歳の老紳士を案内したことがあります。どんなに時間がかかってもいいから、二社一寺のすべてを見たいとの要望だったそうです。心臓が悪いので、医者をして息子さん同行して、五時間かけて巡ったそうです。「回り終えた後、本当に満足そうにお礼を言われました。ほっとするとともに、とてもうれしかったですね。こうした感謝の一言が私たちの何よりの栄養になります。」

「日光には江戸時代の文化がそのまま残っています。こうした歴史をしっかりと知ることは、実は今の私たちがどう生きればいいのかを理解することなのです。」

こう語るのは、日光二社一寺の案内人を務める日光殿堂案内協同組合の春日武之理事長です。

例えば「見ザル、言わザル、聞かザル」の三猿で有名な猿の彫刻。一六匹の猿が八面に彫られています。春日さんは、これらは人間の一生を表している、と言います。

「腰を下ろし遠くを見つめる一匹の猿は、これからの人生を考えている様子です。そう説明すると同時に、中学生という大切な時期にしっかりと時間をかけて自分自身を見つめ、これからの将来を考え、一人の人間として立派に独り立ちをして欲しい。」と話すようにしています。その他にも、この三猿で有名な彫刻には人生の節目における大切な教えがあり一通り紹介

した後に改めて自分の人生とこれから考えてもらうようにしているそうです。

また、陽明門には「いじめや「ケンカ」をしている子どもを描いた彫刻が見られます。「昔はケンカをするにしても、げんこつで殴ってはいけない、あるいはひとときり取っ組み合って決着がつけばそれで仲直り、というような暗黙のルールがありましたよね。彫刻を見ながら子どもたちにそんな話もするんです。」

そのほかにもさまざまな場面の子どもたちが表現されていますが、家康公は平和の象徴である子どもを描くことによって、世の中の平穏を祈ったのだらうと春日さんは言います。眠り猫の彫刻も、猫と一緒に弱い者の代表であるスズメが描かれています。これは弱者も共存できる世の中の実現を目指したことの表れとのことです。

最近、修学旅行で訪れる子ども



## 春日 武之

1951年 旧日光市生まれ。  
1977年 日光殿堂案内協同組合に入所し、以来案内人一筋に歩む。  
1987年 同組合理事長に就任。

日光殿堂案内協同組合

〒321-1431 栃木県日光市山内2281 TEL:0288-54-0641

## 日光豆知識 2

### 堂者引きとは

江戸時代にも二社一寺を案内する案内人がいて、「堂者引き」と呼ばれました。始まりは1655(明暦元)年といわれています。江戸幕府が許可した人だけに許され、男性だけができた仕事でした。

明治以降は警察「日光分署長」の許可を得て活動し、戦争で案内人の大半が応召した際には、唯一残った男性がその伝統を守ったという逸話が残っています。

昭和27年に事業協同組合となったのを契機に、女性の案内人が誕生し、現在も活躍しています。



# 日光の歴史

～深く多彩な1300年～

文=岸野 稔  
text: minoru kishino

## はじめに

「関東平野の最北端にして奥州の喉元」(『日光市史』)に位置する日光の歴史は、時のわが国の政治・文化の中心地との諸関係を背景に、地方にありながら驚くほど多彩である。内外から年間数百万人の来見者を迎える世界的観光都市日光の歴史を、深く多彩な側面に留意し素描する。

なお、山内地区の社寺建造物群103棟(国宝9棟、重文94棟)と周辺の自然環境が一体となった文化的景観は、平成11(1999)年ユネスコより「Shrines and Temples of Nikko(日光の社寺)」として世界文化遺産に指定され、日光国立公園(昭和9年指定。平成19年尾瀬地域分離独立)の指定同様、歴史に輝かしい一ページを刻した。

## 1 原始・古代・中世

**山岳信仰**  
**奈良・平安仏教の東国布教**  
**下野出身高僧の活躍、開山・発展**  
2000メートル級の高山が林立し地域の9割が山地でしかも厳寒の地という厳しい自然条件の日光にも、人間活動の足跡は早く、

大谷川左岸の所野や山久保・小来川に縄文時代の小規模遺跡が点在する。男体山頂(2486メートル)には古代・近世に到る祭祀遺跡があり、各種密教法具等遺物数千点が出土し(一括重文指定)、男体山を御神体として崇める古くからの山岳信仰の盛行が知られる。律令体制の整備とともに下野国府が思川右岸低地(現栃木市田村町)に置かれ、東大寺戒壇設置7年後の天平宝字5(761)年下野薬師寺にも設けられ、東国仏教界の中心を担った。芳賀郡高岡郷(現真岡市)出身の勝道上人は下野薬師寺で授戒後、遙か北方に聳える補陀落山(二荒山・男体山)を開くことを決意し、天平神護2(766)年大谷川を渡り北岸に四本龍寺・本宮神社を創建し活動の拠点とした。男体山登攀三度目の天応2(782)年山頂に立ち、翌々年中禪寺湖北岸に神宮寺(中禪寺)を創建し、諸功績から桓武天皇より上野国総講師に任じられ、仏寺建立・民衆教化に努め弘仁8(817)年入寂した。上人没後、上人の従兄弟にして東大寺で授戒し共に苦修練行した教長が日光山第2世座主職に任ぜられた。

都賀郡出身(延暦13(794)年生。生誕地は壬生町、栃木市の二説)の慈覚大師円仁は、延暦寺で最澄に師事、師の東国布教に随行、後入唐し仏法を学び在唐9年、帰国後第3世天台座主となり天台教学確立と東国布教に努めた。帰朝間もない嘉祥元(848)年に来見し、恒霊山南麓に金堂(現輪王寺三仏堂。本尊は正面右手より千手観音・阿彌陀如来・馬頭観音)、常行堂等を創建、修行の拠点とした(輪王寺に伝わる秘曲舞の「延年の舞」も大師由来とされる)。

## 鎌倉幕府との深い関係 日光山の興隆 貴族・皇族出身座主

古くからの山岳信仰に奈良・平安仏教が加わり、神・仏が渾然となった日光山の宗務関係全般を統率するのが座主職で、代々勝道上人遺弟の高僧が就いた。後、日光山は勢力を伸張させた在地有力豪族との関係を深め、平安末・源平争乱期には彼らを巻き込んだ座主職争奪(17世禅雲と18世隆宣の対立)から山内に兵火が及ぶ混乱を来した。鎌倉幕府は日光山を重視、

頼朝は外戚観を19世座主にして混乱を鎮め、日光山と源氏・幕府との関係は一層深まり、以後座主職には将軍・北条執権等の関係者が就任した。頼朝は文治2(1186)年下野寒河郡の田地15町を日光山常行堂の「三味田」として寄進。また将軍実朝の護持僧にして24世弁寛は、仁治元(1240)年光明院を本坊とし(古来からの本院たる四本龍寺は抗争により焼失)、翌年実朝菩提供養のために三重塔建立(移転し現四本龍寺境内)など日光山興隆に尽力した(日光山中興の祖)。建長5(1253)年藤原氏出身の尊家が鎌倉勝長寿院別当と26世座主を兼ね、以後この職に藤原氏・皇族出身者(特に28世仁澄以降14世紀に7名の皇族座主)が続ぎ、京都・鎌倉との関係がさらに深まった。時の権威・権力との密接な関係の下、堂社建立がなされた日光山は「衆徒36坊、支坊300余」、その所領は「往古社領66郷」(新日光市の大部分、鹿沼市・宇都宮市の一部)と広大であった。この時期日光山別当の多くが天台座主に就くなど、日光山の宗教的権威と世俗的實力は他を圧し、繁栄は周辺地域におよんだ。

頼朝は外戚観を19世座主にして混乱を鎮め、日光山と源氏・幕府との関係は一層深まり、以後座主職には将軍・北条執権等の関係者が就任した。頼朝は文治2(1186)年下野寒河郡の田地15町を日光山常行堂の「三味田」として寄進。また将軍実朝の護持僧にして24世弁寛は、仁治元(1240)年光明院を本坊とし(古来からの本院たる四本龍寺は抗争により焼失)、翌年実朝菩提供養のために三重塔建立(移転し現四本龍寺境内)など日光山興隆に尽力した(日光山中興の祖)。建長5(1253)年藤原氏出身の尊家が鎌倉勝長寿院別当と26世座主を兼ね、以後この職に藤原氏・皇族出身者(特に28世仁澄以降14世紀に7名の皇族座主)が続ぎ、京都・鎌倉との関係がさらに深まった。時の権威・権力との密接な関係の下、堂社建立がなされた日光山は「衆徒36坊、支坊300余」、その所領は「往古社領66郷」(新日光市の大部分、鹿沼市・宇都宮市の一部)と広大であった。この時期日光山別当の多くが天台座主に就くなど、日光山の宗教的権威と世俗的實力は他を圧し、繁栄は周辺地域におよんだ。

## 門前町の萌芽 日光修験の確立・全盛

この後、14世紀末貴族出身の37世慈玄を最後に座主の宣旨は途絶え(第2世教長以来約600年。光明院廃絶)、座禪院住職が御留守居権別当として座主に代わり山務を執る(慶長18(1613)年天海が日光山貫主となるまで)。これは中央権力・権威の弱体化・低下に伴うものであり、以後日光山は在地有力武将(壬生氏等)関係者

が山務を統括しその勢力との関係を深める。ただ、幕府衰退と応仁の乱等の世の混乱とは別にこの時期、日光山は比較的平穏であった。永正6(1509)年来見の連歌師柴屋軒宗長の記した一文「東路の津登」は、当時の日光山および門前地域の繁栄を伝え興味深い。(左上図参照)

天正18(1590)年北条氏を討った秀吉は、小田原方に組した日光山の所領66郷寄進地(含め71郷)のうち、山内の寺屋敷・門前鉢石町・足尾村を残しほとんどを没収、坊舎は多く断絶し衆徒等は山を離れ日光山は衰微の一途を辿った。元和2(1616)年徳川家康が駿府にて薨去し久能山に葬られ、翌年東照大権現の神号が勅賜され新造営の東照社に改葬された。祖父家康を尊崇した3代将軍家光は東照社を大改造(寛永大造営)。ほぼ今日の東照宮の姿となる、寛永13(1636)年東照社21回神忌を盛大に執り行った。家光は慶安4(1651)年薨去、翌々年祖父の墓所に近い大黒山に大猷院廟が造営された。

東照宮の日光山勧請の功績者慈眼大師天海は、慶長18(1613)年家康より日光山貫主(座主。日光山53世)に任ぜられて光明院を再興、彼の下で多くの寺跡が再興され、山内・山外の門流を真言から天台に改流した(江戸期日光山は「衆徒20カ院、別当5カ院、80坊」。日光山興隆とともに承応3(1654)年後水尾天皇第3皇子守澄法親王が日光山貫首となり、翌明暦元年「輪王寺宮」号が勅賜され、日光山は再び皇族座主を迎えた(住する寺院「輪王寺門跡」、その長「日光門主」。以後、明治2年公現法親王が生家伏見宮に復籍するまで皇族座主は12人13代にわたった)。

なお、勝道上人による開山以降、天台・真言密教の影響を受けて日光連山を巡る入峰修行(日光修験)が活発化し、鎌倉末期には形態も整い、南北朝期・室町期に全盛を迎えたといわれる。「三峰五禪頂(春峰・夏峰・冬峰の行の三峰と五隊に分かれて秋に行った入峰修行の五禪頂)」や男体禪頂(今日の二荒山登拝祭)や中禪寺湖畔の靈跡を巡拝する「浜禪頂(船禪頂・補陀洛禪頂)」などの修行がなされた。時に死者の出る厳しい入峰修行も、16世紀末ごろには儀礼化・形式化が進んだ。そして今日、日光連山の各所には修験関連遺跡が点在し、修験盛んな往時の姿の一端を伝える。

神社・寺院と民家が混然とした山内に、絶対権力により東照宮・大猷院等が造営されたが、それは必然的に旧来の堂社・民家の大移動を伴った。山内の聖・俗は明確に分離されて堂社配置はほぼ今日の姿となり、山外に移転した俗家を加えて市街地は再編され門前町の大枠が確立する。日光山は古来からの宗教的権威に加えて新たに家康・家光両将軍の墓所を戴く国家第一級の「聖地」として神聖化される。

秀吉により僅か700石程度となった領地は幕府成立直後そのまま安堵されたが、東照宮など造営に伴い次第に増加され、江戸期「日光御神領」は概ね2万5千石、72カ村(幕末期)であった(新日光市および宇都宮市などの一部の範囲)。日光山の社寺諸行事など宗務一切は門跡門主を頂点に組織され「祭政一致」の観があった。幕府は諸造営の一段落する元禄13(1700)年日光奉行を設置、次第に日光山の自治的権限を縮小し、「寛政の改革」下の寛政3(1791)



中世末ごろの日光山主要部および門前集落  
(図中央に金堂三重塔等、下部に門前集落『日光市史』上巻より)

## 2 近世

### 試練の時① 所領没収、復活 「聖地日光山」の誕生 再度皇族出身座主(輪王寺宮)

「寛政の改革」下の寛政3(1791)

12 | 〈教育旅行をお考えの方へ〉中学生のための日光



年に代官職の「目代」山口氏を罷免、従来氏の執行した貢租徴収など庶政執行権を奪い直接支配を強めた。

### 日光詣、日光土産、門前町の繁栄

幕府の庇護の下に日光山の宗教的権威は高まり、これを直接・間接に支え経済活動を担う山外・集落も充実発展する。「聖地日光山」への参道として日光・例幣使・会津西の三街道が整備され、これらは今日「日光杉並木街道」として特別史跡・特別天然記念物の二重指定を受ける。將軍の東照宮参拝（「社参」）は元和3（1617）年の秀忠から天保14（1843）年の12代家慶まで都合19回、例幣使は正保3（1646）年から慶応3（1867）年まで22年間毎年実施され、その他大名から庶民まで「聖地」へ多数の「日光詣」の人々が訪れた。来暁者は社寺の長い歴史と山間の風土から生まれた日光紫蘇巻唐辛子・日光煉羊羹・日光湯波・指物曲物漆器などの「日光土産」を求め、町は大いに賑わった。

日光の市街地は神橋を境に東町・西町にわかれ、東町は「鉢石宿」として宿泊・商業機能の卓越する門前町・鳥居前町、西町は院坊・社寺奉仕者・奉行所と社寺関係者・職人などが集住し、宗教機能と社寺修築等機能の卓越する社家町・僧坊町の性格を有した。東・西両町は堂社の定期的清掃や例幣使等登山時の道筋掃除など多量の夫役を負担し、しかもそれらは不定期で重い負担となった。なお、東照宮（例えば寛永造替の費用総額56万8千両、銀百貫目、米千石）や大猷院の造営、社殿修築等營繕関係は多大の出費であり、幕府の直接負担であった。その他周辺には、所野・野口・七里・和泉・山久保・小来川などの純農村地域が展開した。

### 災害の頻発、備え

自然災害や大火に度々見舞われた「聖地」の安全・安心対策に幕府は腐心した。女峰山より一気に南下する稲荷川は荒れ川で幾度となく被害を与えたが、特に4代家綱の寛文2（1662）年の大洪水は左岸の稲荷町を襲い町を壊滅させ（流失家屋300余軒、同心10人・町人148人死亡）、町は現在地に移転した。天和3（1683）年の大地震では、家康・家光の墓所石造宝塔や山内各所の石垣などが崩壊し甚大な被害を受けた。「聖地」の警護・防火では、山内4カ所に番所を設置し常時「御殿番」

設する。工場は足尾産粗銅と古河関連銅山からの粗銅を集め、中禪寺湖からの豊かで安定した水力利用の自社発電で（38年の別倉以降、細尾第1〜第4の計5カ所の発電所）、精銅および製品化等に利用した。電源地・原料地立地の精銅所は足尾産出銅の増加に伴い業績を拡大し、工場周辺には関連会社・従業員の家宅住宅などが建設され、清滝安良沢町・清滝和の代町などの集落が生まれた。日光に工業という全く新しい機能が付与され、大谷川の山間に工業地域が出現した。

### 躍動②「観光日光」の誕生

明治になって東町の通り中央には水路が、加えて急傾斜の通り各所に石段があり、近代交通には障害以外の何ものでもなかった。明治9（1876）年天皇の東北巡幸に際し来暁時の不便を動機とし、16年県令三島通庸により水路の側溝化・石段の撤去等道路改修がなされた。さらに21年日光・細尾間馬車鉄道（牛車）、23年日光・宇都宮間鉄道、43年日光・岩の鼻間電車軌道、大正14（1925）年いろは坂を拡幅し乗合自動車運行、昭和4（1929）年東武日光線全通、7年馬返・明智平間ケー

が警護。承応元（1652）年設置の「火の番」（槍奉行配下の八王子千人同心）は当初山内（寛文の大洪水で本宮神社裏より四軒町へ移転）と鉢石町（後廃止）に番所が設置され山内を巡回警備し防火にあたった。嚴重な警備の下でも幾度となく大火があり、特に5代綱吉の貞享元（1684）年大火は四軒町の火の番屋敷や輪王寺本坊・本宮神社など山内堂社の多くを焼き、東町の観音寺・民家などを総なめした。（左図参照）



江戸末期 日光東町の様子（『日光山志』より）

**3 近・現代**  
**試練の時② 時代の大転換**  
戊辰戦争で大鳥圭介ら幕府軍は幕府祖廟の地日光山に籠もったが、板垣退助の深慮のもと堂社などが灰燼に帰すことは回避された。明治4（1871）年延期されていた神仏分離令が発せられ、「神領」を収公し日光山奉仕の衆徒・社僧を解任、神仏習合状態を日光東照宮・二荒山神社・満願寺（後日光山輪王寺）の二社一寺に分離、諸堂社の神仏区分、神地から堂塔移転（特に三仏堂・相輪様移転）など実施の激震となり、日光山は混乱・困窮の極に達した。この危機的状況を脱するため様々な努力がなされたが、特に



江戸末期 日光西町の様子（『日光山志』より）

などにより、昭和7（1932）年湯元スキー場が開場し旅館も通年営業可能となり、湯治場から観光・温泉・避暑・冬季スポーツなどの拠点として発展する。近代と共に日光は、江戸期の「聖地」全面依存の状態から、工業と観光という全く新しい二大機能を獲得・発展させ、第2次大戦等による停滞はあるが、戦後の日本経済の成長に支えられ順調に成長した。

### 試練の時③ 成熟社会への対応

戦後一貫して世界的観光地にふさわしくインフラ・各種観光施設の整備・充実がなされる。本格的な自動車交通時代を迎え、昭和29年第一いろは坂、40年第二いろは坂・金精有料道路、51年霧降高原有料道路、56年日光・宇都宮道路等次々と建設された。鉄道では34年国鉄日光線電化、東武日光線複線化・新型特急電車等投入で輸送力を増強し首都圏と直結した。

一方、人口は大正9（1920）年に1万9575人（旧小来川村含む）、最大が昭和30年の3万3490人で以後一貫して減少、現在（2017年10月1日）1万2828人である。来暁客数は戦後順調に増加し、昭和48年に最大の

約828万人を記録、以後700〜800万人で推移するが、90年代以降今日まで長期的減少・停滞を示す。工業関係では、一時期日本を支えた足尾銅山も昭和49年閉山、買鉱方式による粗銅生産も63年に終息し、足尾の銅と自社電力に支えられた日光の非鉄金属工業も、内陸立地による輸送コスト上昇と円高による安価な海外原材料の輸入増大等により退潮傾向にある。

近代日光の発展を文字通り担った2本柱（非鉄金属工業と観光業）は、維新より一世紀後の昭和40年代後半より歴史的転換期を迎えていく。国内の同種工業の趨勢同様日光の非鉄金属工業に昔日の勢なく、働く多くの人々は他地域に居を移し、清滝の工業地域は新たな展開を模索している。一方、成熟社会において観光に求める価値は、かつての量・団体・没個性・スピード・一過性・物見遊山から、質・個人・小グループ・個性・スロー・滞在・学び・地域連携（エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムなど）と変化している。価値観の転換は観光客に種々の財を提供してきた観光施設・商業施設・輸送施設等の新たな対応を促し、地域の変化を必然化する。

混乱の中で朽ちゆく堂社の保護・保存を目的に設立されたのが保晃会<sup>かい</sup>で、安生順四郎・矢板武らが明治13（1880）年設立、全国より資金を集め（保晃金）、山林（保晃林）・田地（保晃地）を購入し財産を強固にし、堂社修繕などに尽力し大正5（1916）年解散した。

### 躍動①「工業日光」の誕生

慶長15（1610）年発見と伝える足尾銅山は江戸幕府直轄鉱山として17世紀末最盛期を迎え、産出銅はオランダまで輸出されたが幕末には休山状態となった。明治10（1877）年古河市兵衛が取得し、海外の最新技術導入などにより産銅量は急伸し、明治中期には全国有数の銅山となった（ただ、「足尾鉛毒事件」等の負の側面あり）。銅山開発には使用電力確保と産出銅および鉱山使用諸物資の輸送手段確保などのインフラ整備が重要である。このため23年間藤発電所設置等でエネルギーを確保、輸送路として渡良瀬川に沿うルート（街道および鉄道）と、19年細尾峠を越え高架鉄索で日光側に輸送し、23年開通の日光・宇都宮間鉄道を利用し東京に輸送するルートを確認した。古河鉱業会社は39年清滝に日光電気精銅所を新

今日の日光の立つ位置は、歴史上3度目の大転換期に試練の時にある。そして、この状況から脱皮しようとするさまざまな新芽を日光の其所所に見出すことができる。

### おわりに

日光は歴史の宝庫です。あなたの傍に立つ杉の大木に、今渡った橋に、橋の下の清冽な流れ等々に、この宝庫の扉を開く貴重な力ギがあります。扉の背後には深く多彩な日光の歴史と共に、日光と繋がる日本の歴史が広がっています。その中にきつとあなたの住む地域と日光を繋ぐ細い糸は太い糸があります。さあ、皆さん自身の手で扉を開きましょう！

【注】日光は「旧日光市を、日光山」とは寺院の山号であるが、本文では特に社寺の集中する近代以前の山内をいう。  
【参考図書】『日光史』（星野理一郎昭和12年初版昭和52年再版）、『日光市史』（上・中・下巻日光市昭和54年）、『日光山輪王寺史』（日光山輪王寺昭和41年）



戦場ヶ原 MAP



足立 祥吾

1995年大阪府羽曳野市生まれ。小さい頃から水辺の生き物が好きで、環境系の専門学校に進学し「ビオトープ」を学ぶ。その中の環境教育に興味を持ち、現在日光自然博物館で自然解説員を務める。

栃木県立日光自然博物館

〒321-1661 栃木県日光市中宮祠2480-1  
TEL:0288-55-0880 FAX:0288-55-0850 URL:www.nikko-nsm.co.jp/



夏の戦場ヶ原



ガイド風景の様子



ワタスゲ群生



自然解説員が語る

日光の自然を楽しもう!

奥日光の概要・魅力

奥日光の魅力は滝・川・湖・山・森・湿原：と挙げてみればきりがなく、奥日光という地域一か所に様々な環境があります。特に水辺が好きな自分にとって湯滝から湯川沿いに戦場ヶ原を抜ける定番コースでは四季を通して実にさまざまな生き物と出会えるおすすめのコースです。

自然解説員とは

自然解説員はそこにある自然やその背景を相手に伝える仕事です。自然と人となぐ橋渡しの存在なので、自分が主役ではなく自然が主役なのだという意識を持って行っています。

自然解説員になったきっかけ

小さい頃から地元大阪の水辺で生き物たちと親しんでいました。高校卒業後、子供の頃に全力で自然と遊んだ記憶から生き物たちと関わりたいという気持ちが強くなりました。さらにビオトープという生き物の生息地を守るための手法を知り、学ぶために環境系の専門学校に進学しました。

学校ではビオトープの造成・施工管理について学びました。しかし二年次のインターンシップ中、

は自然解説員になってよかったです。あと実感します。

自然の知識をひけらかすだけでは、受け手側からすれば「関西弁のお兄ちゃんなんか気持ちよくしゃべってた」という単なる自己満足で終わってしまうと思うので、参加者の自然に関する興味の度合いや、構成、性格、体調などをガイド始めのうちからできるだけ汲み取り、それを考慮して解説できるように心がけています。

日光豆知識

3 冬の奥日光を歩く

奥日光は冬も魅力的です。日光自然博物館は、毎年1月～2月に雪の奥日光を歩く観察会を開催しています。スノーシューを使って雪の森を散策するのです。

スノーシューは昔でいう「かんじき」。子どもでも安全に雪の上を歩くことができるので、家族連れに人気を呼んでいます。最近は学校単位での参加も増えてきました。

冬でも多くの動物は活発に活動しています。雪の上の足跡やフンはとても目立ちますので、生き物の暮らしがより一層分かります。



お子さんに向けて生き物を解説している様子

ガイドの時、話している内容

修学旅行に来る学生を相手にするガイドが多いので、自然体験内容は五感で遊ぶことに重点を置いています。ただ一つの感覚だけでは体験内容を忘れてしまうと思うので(これはもったいない)、五感をフル活用することで大人になってもずっと記憶に残るような体験をしてもらいたいと思うよう

小学校でのビオトープ造成プログラム内に環境教育があり、自分たちがこの地域の生き物たちを守るんだという意識をもたらず内容で、それを聞いた生徒たちは作業の工程ひとつひとつを丁寧に土運びなどのつらい作業も誰も文句を言わず楽しそうにしているのを見て、人の意識をこうも変えられる環境教育ってすごい、自分も環境教育者になりたいと思いました。





ゆつくり歩いてこそ

## 日光の素顔に 会える



### 星野 初代

日光ふるさとボランティアとして  
史跡のガイド、湯元ビジターセン  
ターでは自然のガイドなどを務め  
る。日光子ども歴史探検隊を運営  
し、子どもたちの健全育成にも尽  
力。塾経営、家庭教師。

奥日光のこと、好きの一言では  
済まなくなってきました。日光に  
生まれ奥日光の自然をガイドして  
二三年、二三年も付き合っている  
と、奥日光の「私のどこが好きな  
の」「私とこれからどう生きてい  
きたいの」と、まるで恋人のよう  
に質問してくる声が続いてくる  
ので。

日光、そこは自然と歴史の寶石  
箱。貴重な二つの宝を合わせ持つ  
希少な存在です。地元では、いろ  
は坂下を「日光」、坂上を「奥日光  
」と区別して呼んでおり、いろは坂  
下を歴史エリア、坂上を自然エリ  
アと大まかに分けてみるのも良いで

しょう。  
さて、その奥日光の自然という  
宝石は、どうしてこんなに輝いて  
いるのでしょうか。

その第一の原因が、関東以北最  
高峰の活火山・白根山（二五七八  
メートル）から東に連なる日光火  
山群の活動。数百万年前から明治  
時代までの火山活動で、変化に富  
んだ地形を造り上げてきました。  
その結果、いろは坂登り口から白  
根山頂まで、直線距離で一五キロ  
メートルしかないのに高低差は一  
六〇〇メートル以上もある、横幅  
より高さの方が大きいという驚き  
の地形に。その中に、山・川・滝・



湖沼・湿原・温泉……さまざまな  
要素がギュッと詰まった箱庭のよ  
うな景観です。奥日光と言えば、  
男体山（二四八六メートル）や、  
華厳ノ滝、戦場ヶ原（一四〇〇メー  
トル）と具体的地名を思い浮かべ  
る方も多いでしょう。ちなみに戦  
場ヶ原は、約二万年前の男体山の  
噴火で川がせき止められ湖がで  
き、約一万七千年前の男体山の再  
度の噴火で乾燥しつつあった湖が  
さらに軽石流で埋め尽くされ、そ  
こに生えてきた植物が寒さのため  
に泥炭化し湿原となった、という  
生い立ちです。



火山群が変化に富んだ地形を生  
むと、その地形が次に、変化に富  
んだ自然を生み出しました。奥日  
光と言えば、地名だけでなく、具  
体的な風景が浮かんでくる方も少  
なくないでしょう。小田代ヶ原の  
一本のシラカンバ・貴婦人、戦場ヶ  
原のワタスゲ、竜頭ノ滝のトウゴ  
クミツバツツジ……。しかし、ツ  
ツジ一つをとってみても住む場所  
が決まっています。いろは坂の下  
から標高の高い所に向かって、ア  
カヤシオ、トウゴクミツバツツジ、  
レンゲツツジ、ムラサキヤシオと  
いうふうな。aという植物はAの  
地、bという植物はBの地しか  
生きていけない、それが自然界の  
厳しさです。Bの地がだめになっ  
たらbの植物をAの地に移せばイ  
イヤ、と人間の思い通りに命をコ  
ントロールすることは、ほとんど  
不可能です。ですから、地形の変  
化が大きいほど、そこに適した植  
物が多種存在し、そこに多様な動  
物の世界が展開します。奥日光で、  
花を愛で、サルやシカに出会い、  
バードウォッチングを楽しみ、釣  
りに夢中になる……これらは全  
て、火山活動による変化に富んだ  
地形があつてこそそのものなの  
です。

もあり日本海型気候でもある、微  
妙な立場です。複雑な地形に複雑  
な気象が絡み合い、例えば、いろ  
は坂ではドシャ降りだったのに中  
禅寺湖に着くと抜けるような青空  
とか、戦場ヶ原では男体山がギリ  
イに望めたのに湯元に着くと一寸  
先も見えない猛吹雪とか。この激  
しい気象を生き抜くことのできる  
命だけが、この地に栄えるのです。  
従って、変化に富んだ地形と変  
化に富んだ気象を両親に、奥日光  
の豊かな自然が生まれたと言つて  
もいいでしょう。これらを知ると、  
奥日光が、国立公園に指定され  
いたりラムサール条約に登録され  
ているのも、納得していただける  
ことでしょう。







明智平ロープウェー

### 足尾で環境問題を学ぶ



足尾銅山閉山直後の製煉所。製煉所はまだ操業していた（1974年）

日本初の本格的な水力発電所、間藤水力発電所遺跡



ボランティアが多数参加して行われている植樹活動

### 私たちの日常生活と

# 奥日光の自然は連動

奥日光とどうやって付き合っていくのか。奥日光にいらつしやうた時だけ自然の礼拝者となり、ご自宅に帰れば人間は全ての自然の上に君臨しているのだと言わんばかりの暴君となってしまうのでは、奥日光に嫌われてしまいます。忘れないでください、空気も水も地面も、あなたがお住まいの地とつながっていることを。奥日光の森林が造り出した清浄な空気は周辺に拡散し、奥日光の山々に降った雨や雪は川になり地下水になり関東平野を潤して太平洋に注ぎます。その逆に、大都会の空気が、奥日光の高山に酸性雨を降らせることもあるでしょう。このように、あなたと奥日光は「つながっている」のです。奥日光の自然を愛し守っていくことは、すなわち、あなたのお住まいの地の環境を愛し守っていくことと同じなのです。

一二年間奥日光とお付き合いさせていただいた私は、恋しい地にこう答えたい。喜怒哀楽、あなたのどんな表情もみんな好き。これからは、あなたのフィールドで

自分と自然はつながっているのだと体感してくださる方が少しでも増えるよう微力ながら活動していきます、と。

あなたも奥日光の懐に飛び込めば、奥日光の声が聞こえるかも？



湯元雪まつり「雪灯里(ゆきあかり)」

湯ノ湖

# 近代日本の光と影

足尾銅山は一六世紀半ばには採掘が始まっていたといわれています。その後、江戸幕府直轄の銅山となり、産出された銅は日本全国へ送られました。東照宮や江戸城などの造営に使われたほか、足字銭と呼ばれたお金(寛永通宝)も鑄造されました。しかし、次第に産出は減っていきます。

明治時代になって古河市兵衛が銅山経営に乗り出し、最新の技術を探り入れながら、坑道の開削、製煉所や選鉱場の拡大、動力の電化、輸送体制の整備などに積極的

に取り組みました。日本の近代化にとって、銅はなくてはならない存在でした。殖産興業の政策のもと、足尾銅山は急速に発展し、わが国で産出される銅の四割近くを占めるようになり、東洋一の銅山とうたわれるま

馬車鉄道といった施設が数多くつくられそれらの跡がかつての隆盛を今に伝えていきます。

一方で、日本で最初に公害が発生した地として「公害の原点」と呼ばれることにもなりました。明治二〇年代、足尾を源流とする渡良瀬川下流域に、鉱毒による大きな被害をもたらします。また、地元でも製煉所から発生する亜硫酸ガスによって作物や山林が育たなくなり、上流の松木村では暮ら

に困り、とうとう廃村になってしまいました。第二次世界大戦が始まると、軍事優先の増産体制が続き、鉱山労働者も戦争へ召集されました。労働力不足を補うため、朝鮮や中国から労働者が徴用され、多くの犠牲者を出しました。無計画に掘り出し続けた結果、銅山は荒廃します。戦後は復興されて採掘が

続けられますが、一九七三(昭和四八)年、ついに閉山となりました。足尾銅山は、日本の産業発展に大きく貢献しましたが「負の遺産

## ラムサール条約湿地

奥日光の「湯ノ湖、湯川、戦場ヶ原、小田代ヶ原」が、2005年、「ラムサール条約湿地」に登録されました。ラムサール条約の正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。国際的に重要な湿地の保全を目的としています。

小田代ヶ原では一般車両の乗り入れが禁止され、低公害バスが運行されています。また、湯元では帰化植物のオオハングソウの除去などの保全活動が行われています。



も残りました。足尾地域では、影の部分も含めて地域全体を日本の近代化の足跡を学ぶ教育の場としてとらえ、特に「環境学習」の機会を提供することに力を入れていきます。近年は修学旅行の一環として足尾を訪ねる学校も増えてきました。そうした活動の拠点として「足尾環境学習センター」も設けられています。足尾ではかなり前から国・県などによって山林回復事業が行われてきました。これに加え、一九九六(平成八)年からは、NPO法人「足尾に緑を育てる会」が、県とともに植樹活動に取り組み始めました。今では多数の人々がボランティア植樹に参加するようになり、「育てる会」では修学旅行での体験植樹の指導も行っています。



# 日光のおすすめ体験学習

# 藤原・栗山・今市エリア

**奥日光の自然学習** (一財)自然公園財団日光支部 (日光湯元ビジターセンター)

スライド上映や観察会で奥日光の自然を学べます。

[料金]無料  
[定休日]水曜日  
[営業時間]9時～16時30分  
[住所]日光市 湯元  
[問い合わせ]TEL: 0288-62-2321



**旧英国大使館別荘見学** 栃木県立日光自然博物館

日光の奥に、19世紀の英国がある。

[料金]大人200円 小人(4才～中学生)100円  
[営業時間]9時～17時 (11/11～11/30は9時～16時まで)  
[住所]日光市 中宮祠2482  
[問い合わせ]TEL: 0288-55-0880



**旧イタリア大使館別荘見学** 栃木県立日光自然博物館

近代の国際避暑地にタイムスリップ。

[料金]大人200円、小人100円(4才以上～中学生まで)  
[営業時間]4～6月、9～11月:9時から16時 7～8月:9時から17時  
[住所]日光市 中宮祠2482  
[問い合わせ]TEL: 0288-55-0880



**そば打ち体験** 手打ちそば日光の庄

こねたりのばしたり、そば打ち体験をして試食もできる。

[料金]3,564円/1人～  
[営業時間]11時～16時  
[所要時間]約60分  
[住所]日光市 今市600-1  
[問い合わせ]TEL: 0288-21-3910



**草履編み** 日光下駄山本 (日光木彫りの里工芸センター内)

細かく裂いた竹の子の皮で編み込んだ草履が作れます。

[料金]片方1,500円税込み～(要予約)  
[営業時間]9時～17時  
[所要時間]約90分  
[住所]日光市 所野 2848  
[問い合わせ]TEL: 0288-53-0070  
もしくは携帯090-2632-4888



**鬼怒川ライン下り** 鬼怒高原開発株式会社

大自然が創造した渓谷美の極みとして高名な鬼怒川の名物。

[料金]大人(中学生以上)2,700円 子供(4才から小学生まで)1,200円  
[営業時間]9時～15時45分  
[住所]日光市 鬼怒川温泉大原1414  
[問い合わせ]TEL: 0288-77-0531



**足尾環境学習** 足尾環境学習センター

足尾銅山の歴史等を映像と資料で幅広く学習できます。


[料金]大人200円、高校生以下100円 (未就学児は無料)  
[営業時間]9時30分～16時30分  
[住所]日光市 足尾町銅鞮水公園内  
[問い合わせ]TEL: 0288-93-2525



**平家の里** 平家の里

平家落人の暮らしに想いを馳せる。

[料金]大人(高校生以上)510円、小・中学生250円 ※30名様以上は100円引  
[営業時間]8時30分～17時(4/1～11/30) 9時～16時30分(12/1～3/31)  
[住所]日光市 湯西川温泉1042  
[問い合わせ]TEL: 0288-98-0126



**日光山輪王寺写経体験** 日光山 輪王寺

静かな雰囲気の大広間で、心落ち着いたひとときを。

[料金]1,000円  
[営業時間]9時～  
[住所]日光市 山内2300  
[問い合わせ]TEL: 0288-54-0531



**日光彫体験** 日光木彫りの里工芸センター内

手鏡、丸盆菓子器などに図柄を彫ることができます。

[料金]920円～(要予約)  
[営業時間]9時～17時(15時半最終受付)  
[所要時間]約80分  
[住所]日光市 所野 2848  
[問い合わせ]TEL: 0288-53-0070



**淡水魚のエサやり・見学** 国立研究開発法人水産研究・教育機構 (中央水産研究所日光庁舎)

淡水魚にエサやり体験や研究内容を楽しめます。

[料金]大人300円、小・中学生100円  
[営業時間]9時～17時(3/20～10月末)9時～16時(11/1～末日)  
最終入場受付30分前、冬期休館、10名以上は要予約  
[所要時間]約40分  
[住所]日光市 中宮祠2482-3  
[問い合わせ]TEL: 0288-55-0055



**湯西川ダックツアー** 湯西川ダックツアー

国産初の水陸両用バスでダム湖クルージング。

[料金]大人:3,000円、小学生以下2,000円、幼児(2歳以下)500円  
[営業時間]8時30分～18時  
[住所]日光市 西川1478-1  
[問い合わせ]TEL: 0288-78-0345



## 藤原エリア FUJIWARA

古くから鬼怒川、川治の温泉地として栄える旧藤原町。鬼怒川の渓谷沿いに温泉街が開け、毎年、たくさんの観光客が訪れてにぎわっています。

鬼怒川温泉では、7カ所の邪鬼像をスタンプラリー感覚で回る「七福邪鬼めぐり」がお勧め。温泉街には、邪気を払って福を招くとされる「邪鬼」をモチーフに、益子町在住の陶壁作家藤原郁三氏が制作した「鬼怒太」「鬼怒子」の陶像が、鬼怒川温泉駅前と鬼怒川に架かる橋のたもとに計7体設置されています。観光協会の窓口などでスタンプ帳をもらい、既に押されている鬼怒川温泉駅前広場のスタンプに加え、それぞれの橋に置かれているスタンプを6つ集めると、「邪気払いお守り」がプレゼントされます。

このほか2つの温泉街では、年間を通してさまざまなイベントが繰り返されていますので、いつ訪れても楽しめます。



邪気を払い福を招く邪鬼をモチーフにした陶像が計7体あります

## 栗山エリア KURIYAMA

その昔、壇ノ浦の合戦に敗れた平家の落人たちは、源氏の追っ手から逃れて全国に落ちのびたといわれます。旧栗山村の湯西川に逃れた一族が、沸き出していた温泉で傷を癒やしたのが湯西川温泉の始まりとされており、人目をひかないように「五月の節句に鯉のぼりはあげない」などの風習が今でも残っています。

こうした歴史を後世に伝えようとしてつくられたのが「平家の里」。落人たちの住まいや生活の様子が再現され、平清盛、敦盛の像も展示されています。また、平家大祭など平家にまつわるイベントも行われています。

同じく旧栗山村の川俣温泉、奥鬼怒温泉も素朴で味わいのある温泉です。深緑や紅葉など渓谷の美しさが四季折々に楽しめます。健脚の人なら鬼怒川の源流にあたる鬼怒沼へのハイキングもお勧めです。



平家の里

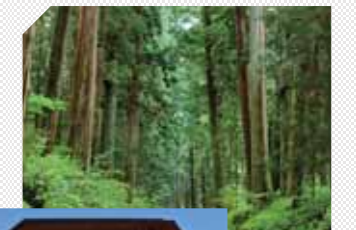
## 今市エリア IMAICHI

旧今市市は日光街道、例幣使街道、会津西街道が交わる重要な宿場町として古くから栄えました。この街道沿いに植えられ、うっそうとした木陰をつくっているのが日光杉並木です。

徳川家康公の家臣だった松平正綱が20年あまりの歳月をかけて杉を植え、家康公の三十三回忌にあたる慶安元(1648)年、日光東照宮に寄進しました。その寄進碑が、起点となる神橋近くのほか、今市の大桑、山口、小倉に建てられています。

総延長は約37キロ。世界一長い並木道として、ギネスブックにも載っています。また、国内で唯一国の特別史跡と特別天然記念物の二重指定を受けています。

今市は二宮尊徳(二宮金次郎)に大変ゆかりのある地であり、尊徳は70年という生涯を今市で終えています。尊徳がどのような仕法を施したのかを、豊富な資料を通して紹介しているのが、2017年4月にオープンした「二宮尊徳記念館 日光市歴史民俗資料館」です。



杉並木



二宮尊徳記念館 日光市歴史民俗資料館